地域自立促進計画(平成28年度 案を、それぞれ原案のとおり可 執行部と活発な論戦を展開しま 質問には、13人の議員が登壇し が追加上程されました。 興特別奨学金条例の制定、 案が上程、さらに10日に教育振 (会期 平成27年第4回定例会 した。(7~20ページ参照 ~平成32年度)の策定の2議案 最終日には、提出された4議 また、4日から行われた一般 12月1日~18日) 例会が開かれ、 月1日から第4回定 過疎 12

平成27年度 一般会計補正予算(第3号)

6596万6千円

決されました。

方々が傍聴に訪れました

今定例会には、

延 べ 57

人の



《一般会計予算総額》 258億9260万4千円

道の駅等管理事業



2250万円追加 道の駅あさじ駐車場拡張工事

総合文化センター管理事業

561万6千円 追加

小学校施設維持管理事業

つぎが選定されています。

377万円9千円 追加

財産の無償貸付(旧大野町西部コミュニティセンター)

地域活性化、廃校舎有効活用のため無償貸付



旧大野町西部コミュニティセンター

る木棺等の製品を、 した。 付けるものです。 使用して製造販売する事業を計 のため、 ている特定非営利活動法人豊後のひ 地域の活性化、 応募者のうち、 大野町西部 ターの建物の 利用事業者を公募していま 葬儀の際に使用 廃校舎の有効活 コミュニティセン 一部を無償で貸 大分県産材

豊後大野市教育振興特別奨学金条例の制定

三重総合高校入学時の支援施策で、特別奨学金を給付



特別奨学金の概要

- ·特別奨学金額 月額3万円
- 付 期 間 正規の就学期間の範囲内
- · 対 本市に住所を有し、大学進 学を志す生徒で、学業成績・ 人物ともに優秀な者(各学 年最大 10 名)

徒のうち、 生徒に対して、 重総合高校に入学 育成等を図るため、 人物ともに特に優秀な 大学への進学を志す生 い志を持つ次代の若者 八学する場合の支援施 地域の 将来を担う高 学業成績、 奨学金 Ų

するものです。 を給付する制度 を創 立三重総合高等学校

校である大分県 内 唯 0) 高等学

らない。 の選抜をすることはあってはな は改善できない。奨学金で生徒 付しても本来の定員割れの現実 改革を考えなければ、

規則正しい高校生活をする生徒 生徒を支援するより、 本来の姿ではないか。高得点の ひとりに支援をするのが行政の れば、三重総合高校の生徒一人 地域を考えての議案提出であ

明るくて

はないか。 を支援していくほうがよいので

れば問題解決にはならない。

賛成討論 市 内 唯 の高校がなくな 部

かり、 と思う。 徒の肉体的負担が増加するもの る支援策が必要である。 有能な人材を確保するため 合高校に1人でも多くの優秀で を与えることになる。 必然的に遠距離通学を余儀なく ば、地元の高校に行きたくても 現在、 他校にないインパクトの 地元経済にも多大な影響 保護者の経済的負担や生 定員割れが続く三重 人口減少にも拍車がか 総

と確信している。

市民の関心の一

助になる

成討論 部)

こそ自治体の考案が必要であ にあり、これ以上進めば取り返 せない環境になると感じる。 市内の生徒の入学者は減少傾向 市内唯一 今回の条例制定は、 の高校でありながら 高校に 今

反対討論

や指導そのものを変えていかな 績を出したいのであれば、授業 ると考える。三重総合高校の実 充実すべきではないか。 る生徒全体に恩恵のある補助を ならば、 め本格的な活動を始めたばかり う生徒に応えるべきである。 体を三重総合高校に来たいと 支援の目的、手段はほかにあ 高校全体のレベルアップの 自治体が支える手段は学校全 高校の中で頑張って

3 議院はり声のかけ橋 (第48号2016.2)

ことを期待する。

来年度に多くの人材が集結する

年度より来年度、

来年度より再

合高校に関心を持ち受験し、

木

1人でも多くの市民が三重

【本会議での討論】

三重総合高校内の取

いり組み

お金を給